

公益財団法人うつのみや文化創造財団 中期経営計画評価表（平成29年度実績）

平成30年4月1日現在

I 組織の概要

1. 基礎情報

所在地	宇都宮市明保野町7番66号			設立年月	平成21年4月
市所管課	教育委員会事務局 文化課			代表者	理事長 篠塚 茂夫
ホームページアドレス	http://uacf.jp/				
基本財産（資本金）	110,000千円	主な出資者		出資額	出資割合
		—		—	—
	市出資額	110,000千円	—		—
市出資割合	100.0%	—		—	—
設立目的等	幅広い文化芸術事業を展開するとともに、市民の多様な文化活動を育成・支援することにより、魅力ある市民文化の創造を図り、地域文化の振興に寄与する。				
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮市文化会館、宇都宮美術館の文化芸術振興事業</li> <li>・宇都宮市文化会館、宇都宮美術館の管理運営事業</li> <li>・その目的を達成するために必要な事業（プレイガイド事業など）</li> </ul>				
公益目的事業比率 （公益法人のみ）	83.0%				

2. 組織・人員情報

役職員数	役員				職員					
	常勤	理事	1	うち市OB	正規職員等			嘱託・臨時職員等		
					再雇用職員 （フルタイム）	2	0	嘱託職員	16	0
非常勤	理事	11	1	派遣等職員	市	0	0	臨時職員等 （アルバイト等含む）	1	0
	監事	2	0	市以外	0	0				
計		14	2	計	35	1	計	17	0	
役員の平均年齢（歳）	67.3	役員の平均年収（千円）	—		情報公開制度の有無				0	
職員の平均年齢（歳）	45.5	職員の平均年収（千円）	5,833		個人情報保護体制の有無				0	

3. 財務状況

単位（千円）

【貸借対照表】	27年度決算	28年度決算	29年度決算	備考
資産	921,699	958,084	934,111	
負債	340,786	369,959	339,858	
（うち損失補償等額）	0	0	0	
純資産	580,913	588,125	594,253	
（うち利益剰余金）	471,571	478,885	485,114	

※一般財団等は、純資産を正味財産合計、利益剰余金を一般正味財産として読み替えています。

【損益計算書】	27年度決算	28年度決算	29年度決算	備考
総収入	907,040	740,513	918,007	
（うち市補助金等）	126,879	50,396	75,896	
（うち市委託料等）	634,593	642,132	673,640	
経常損益	10,024	7,395	6,310	
当期損益	11,030	7,314	6,229	

※一般財団等は、損益計算書を正味財産増減計算書、経常損益を当期経常増減額、当期損益を当期一般正味財産増減額として読み替えています。

【うつのみや文化創造財団】

## Ⅱ 各項目の取組状況

### 1. 事業の充実・重点化

No	取組項目	目標	基準値	実績値			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	
1	公益目的事業比率の維持	31年度末 50%以上	82.0%	84.4%	84.7%	83.0%	
2	自主・受託事業の充実	31年度 93事業を実施	91事業	112事業	107事業	123事業	
3	効果的・効率的な施設の管理	31年度利用者数・観覧者数合計58万人	利用者・観覧者数57.5万人	利用者・観覧者数22.5万人	観覧者数13.6万人	利用者・観覧者数57.6万人	
4	文化芸術発信事業	31年度2事業を実施・継続	1事業	3事業	3事業	3事業	
5	周年・リニューアルオープン記念等の事業の実施	28年度実施 29年度実施調査・研究	開催準備	開催準備	6事業	23事業	
6	教育普及事業等の充実	31年度31事業を実施・継続	25事業	48事業	51事業	43事業	

### 2. 地域における公益的活動の推進

No	取組項目	目標	基準値	実績値			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	
7	地域連携事業の実施	31年度9事業を実施	8事業	12事業	6事業	5事業	
8	文化会館、美術館以外の館外での事業の実施	31年度8事業を実施	5事業	29事業	64事業	21事業	

### 3. 健全経営の維持と経営の更なる改善

No	取組項目	目標	基準値	実績値			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	
9 (共)	市からの補助金・負担金の適正化	継続的な見直し	75,111千円	126,879千円	50,396千円	75,896千円	
10 (共)	市からの委託料（指定管理料）の適正化	継続的な見直し	676,986千円	634,593千円	642,132千円	673,640千円	
11	財団保有財産の適正化	継続的な見直し	適正化	→	→	→	
12	特定外収入の増収（国庫補助の獲得）	継続的な実施	4,500千円	無	無	無	

### 4. 組織・人員体制の強化

No	取組項目	目標	基準値	実績値			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	
13 (共)	常勤役職員数の適正化	継続的な見直し	31人体制	32人体制	33人体制	32人体制	
14	職員の資質の向上と育成	研修内容の充実 31年度総資格18種	総資格数18種	総資格数20種	総資格数20種	総資格数19種	

### 5. その他

No	取組項目	目標	基準値	実績値			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	
15	施設の適切な維持管理	早期予算化による実施	小規模な故障・破損が発生	大規模改修工事の実施	大規模改修工事の実施	大規模改修工事後の不具合の修繕	

### Ⅲ 総合評価

<p>団体による 自己評価</p>	<p>【評価】 組織改編に伴い、それぞれの部局が積極的に各種事業に取り組み、魅力ある市民文化の創造を図り、地域文化芸術の振興に寄与することを目的に、文化芸術に係る公演や成果発表、芸術祭、企画展、コレクション展の開催のほか、文化芸術を実施する場の提供及び多様な文化芸術に触れる機会、鑑賞の場を提供することにより、誰でも日常的に文化芸術に触れ、学び、参加できる事業の実施ができた。 事務局においては、財団の経営基盤と組織体系の強化を図るとともに、宇都宮市の文化資源を活かした事業、市民文化の創造と振興を図る事業の実施ができた。またホームページをリニューアルし、情報発信の強化にも努めた。 文化会館においては、大規模改修工事後のリニューアルオープン記念事業を数多く実施した。特に、オープニング記念事業「東京フィルハーモニー交響楽団演奏会」、宇都宮能三流派公演、宇都宮バレエ祭「ドン・キホーテ」公演等は、地元の文化団体との協働により、宇都宮市にゆかりのあるアーティストが出演するなど宇都宮独自の公演となった。なお、来場されたお客様や出演者から「音響が抜群」「素晴らしい舞台」などのお言葉を多数頂いた。また、平成30年1月には、昭和55年の開館以来2,000万人の来館者を達成した。 美術館においては、企画展の実施にあたり幅広いジャンルからバランスのとれた構成となり、目標観覧者数を上回ることができた。教育普及事業では、新規事業「美術館訪問鑑賞会」を実施し、子供たちが学芸員や解説ボランティアとの対話から鑑賞を深めることができた。</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織改編に伴う事務局事業のあり方</li> <li>・若手職員の育成及び技術継承</li> <li>・自主財源の確保</li> <li>・各文化団体との連携強化</li> </ul>
<p>所管課による 評価</p>	<p>【評価】 各事業については、財団の持つ専門性やノウハウを活かし、計画どおり積極的な事業展開が図られるとともに、平成29年度から財団事務局と文化会館の職員兼務を解消し事務局を専任化したほか、文化会館及び美術館を1課体制とし組織運営の効率化を図り、自律的かつ持続的な財団運営に努めている。 事務局においては、劇団四季ミュージカル「こころの劇場」や「ふれあい文化教室」などの市民文化の創造と振興を図る事業など5事業を本市と連携し効果的に実施した。 文化会館においては、平成28年度の大規模改修工事に伴う休館を契機として開始した館外事業「地区市民センター出前寄席」を引き続き未実施地区市民センターにおいて実施し、地域の文化芸術の振興に寄与するとともに、会館事業の外部への発信に努めた。また、改修工事後のリニューアルオープニング記念事業として、「東京フィルハーモニー交響楽団演奏会」をはじめ、「宇都宮能三流派公演」や「ファインフィールドフェスティバル」など数多くの事業を開催し、休館前の施設利用者数と同等の利用者に来館していただくことができた。 美術館においては、企画展を5回開催し、世界的に熱狂的なファンをもつ「エドワード・ゴッリー」や現在活躍が目覚ましいアーティスト「K I G I」、地元ゆかりの「灰野文一郎」など幅広いジャンルの美術作品を多くの方に観覧していただくことができた。また、平成29年度から新館長を迎え、館長講座を2回開催したほか、小学生を対象に市有バスを活用した「美術館訪問鑑賞事業」を開始するなど、新たな手法で来館者の拡大に取り組んだ。 また、財団の「中期経営計画」や「指定管理事業計画」の具現化を図るため、新たな取組として、「財団版事業実施計画（平成30～32年度）」を作成するとともに、「財団人材育成基本方針」を検討するなど、将来に向けた運営の適正化に努めた。</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財団の自律的かつ持続的な運営に向けた職員の採用</li> <li>・文化会館40周年（2020年）や美術館25周年（2022年）の好機を生かした魅力ある事業展開</li> <li>・財団事務局を核とした組織経営や内部統治の強化の推進</li> <li>・積極的な自主財源の確保に向けた具体的な取組の実施</li> <li>・財団のスケールメリットを生かした市民全体に波及する事業実施や市民の文化活動への支援・強化</li> </ul>